

旭川市立大学経済学部教員 業績一覧
2023年1月～12月

大野成樹

【論文】

1. Iwasaki, I., & Ono, S. (2023). Economic development and the finance-growth nexus: a meta-analytic approach. *Applied Economics*, 1-18. (査読付)
<https://doi.org/10.1080/00036846.2023.2289921>

【外部資金獲得】

1. 科学研究費補助金・基盤研究(C)・研究課題番号22K01479 (2022年4月～2027年3月)
研究代表者
「米国の非伝統的金融緩和政策および金融正常化が新興国経済に与える影響に関する研究」(390万円)
2. 公益財団法人・野村財団研究助成N22-3-E30-001 (2022年4月1日～2024年3月31日)
研究分担者
「世界経済の金融発展と経済成長の関係に関する大規模メタ分析」(95万円)

【社会活動(ア)】講師、通訳

1. (講義)「世界経済を読み解く」、富良野ことぶき大学、2023年8月30日、富良野市複合庁舎

【社会活動(イ)】各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 比較経済体制学会 事務局担当幹事 (2023年6月4日～現在)
2. 一橋大学経済研究所ロシア研究センター 研究協力者
3. 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 共同研究員

Geoffrey Carr

【学会発表】

1. JALT National PanSIG Conference, Kyoto Sangyo University, May 2023: “Virtual Internships in EFL: Insights from Students and Interns”, Presentation
2. JALT National PanSIG Conference, Kyoto Sangyo University, May 2023: “Reading the Readers: Peer Support Readers Reflections on Feedback”, Presentation

3. Hokkaido FDS Forum, September 2023: “Shifts, Shocks, and Fragilities - International Cooperation Post-Corona”
4. JALT 2023 International Conference, つくば国際会議場, November 2023: “Navigating Committees: Strategies for Growth and Change”, Workshop
5. JALT 2023 International Conference, つくば国際会議場, November 2023: “Peer Support Readers and Authors: Reflections on Feedback”, Forum

【社会活動 (ア)】 講師、通訳

1. Technical Consultant - Technology in Language Learning - JALT TASC (Technical Advisory Support Committee) - permanent member
2. Academic Writer's Research Program - JALT Writers Peer Support Group Feedback Tool Development Project - 2021～
3. Research Coordinator, JALT Writers Peer Support Group - 1/2023～
4. Member at Large, JALT Web Services Committee - 2022～
5. JALT Conference Reading Committee, 2023～
6. JALT CALL 2024 Conference Committee, Vetting Chair

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. JALT Writers Peer Support Group Feedback Tool Development Project - 2021～
2. Feedback Efficacy in Online Group Journals for University ESL students - a long-term examination of the impact of second language feedback on both ends of the feedback relationship - 2021～
3. Virtual Internships usefulness in addressing Bloom's Two Sigma Problem - an ongoing study of the efficacy of virtual interns in EFL programs - 2022～
4. JALT CALL CERN Indico Online Conference Management Platform Feasibility Project (events.jalt.org) - 2023～

勝 又 悠太郎

【論文】

1. (単著)「グローバル経済下の地場産業に関する研究動向と課題—日本の経済地理学の成果を中心に—」『旭川大学経済学部紀要』第82号、37-55頁。(査読あり)(2023年3月)
2. (単著)「奈良県の医薬品産業における企業の存立形態」『季刊地理学』第75巻、64-77頁。(査読あり)(2023年6月)

【書評】

1. 書評 宮崎雅人著『地域衰退』岩波書店、2021年。『地域研究所年報』(旭川大学)第43号、15-22頁。(2023年3月)

【外部資金獲得】

1. (研究分担者) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「デリー首都圏の空間構造—新興国都市論の構築に向けて—」(研究代表者:友澤和夫(広島大学大学院人間社会科学研究科教授))(19H01384)(2019年4月~2023年3月)
2. (研究分担者) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 (B))「現代インドにおける地域間システムと地方都市圏の「包摂的成長」」(研究代表者:後藤拓也(広島大学大学院人間社会科学研究科准教授))(20KK0016)(2020年10月~2024年3月)
3. (研究分担者) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「インドにおける都市化のダイナミズム:「上からの都市化」と「下からの都市化」の溶融」(研究代表者:友澤和夫(広島大学大学院人間社会科学研究科教授))(23H00731)(2023年4月~2027年3月)

【社会活動 (ア)】 講師、通訳

1. (講師)「GISの勉強会1」旭川大学地域研究所 2022年度 第2回研究会(2023年1月)
2. (講師)「GISの勉強会2」旭川大学地域研究所 2022年度 第3回研究会(2023年2月)
3. (講義)「地域経済をどのように捉えるか?—地域活性化に向けて—」2023年度 第1回旭川市立大学オープンキャンパス(2023年5月)
4. (講師)「地場産業の復権に向けて—伝統技術を生かしたイノベーション創出—」西神楽公民館 百寿大学(旭川市立大学出張講義)(2023年10月)
5. (講師)「GISの勉強会3」旭川市立大学地域連携研究センター 2023年度 第1回研究会(2023年11月)
6. (講師)「GISの勉強会4」旭川市立大学地域連携研究センター 2023年度 第2回研究会(2023年11月)

7. (助言・指導)「講評」北海道旭川南高等学校 第13回 校内課題研究発表会 (2023年12月)

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 地理科学学会編集専門委員会委員
2. まちなかキャンパス2023 高校テナント審査委員

小 関 健 三

【論文】

1. 「制裁としての重加算税について」『税法学』、589号、3頁 (査読付)

【学会発表】

1. 「制裁としての重加算税について」日本税法学会、令和5年6月24日、北海道大学

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 旭川市契約審査委員、市立旭川病院経営委員会外部委員
2. 旭川家庭裁判所家事調停委員、旭川簡易裁判所民事調停委員

古 松 丈 周

【論文】

1. 「資本主義世界システムと「もうひとつの発展」：新自由主義下の内発性」『旭川大学経済学部紀要』、82号、1-14頁 (査読付)

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 旭川ウェルビーイングコンソーシアム運営委員

近藤 功 庸

【論文】

1. 董思源・山本康貴・澤内大輔・日田アトム・近藤功庸「中国トウモロコシ作生産性の地域別貢献度分析」『フードシステム研究』第29巻第4号、231-236、2023年（査読付き）
DOI: https://doi.org/10.5874/jfsr.22.29.4_13

【学会報告】

1. Siyuan Dong, Atomu Nitta, Katsunobu Kondo, Hirokazu Akahori and Yasutaka Yamamoto, Regional Contributions to the Changes in China's Soybean Total Factor Productivity, the 67th Annual Conference of the Australian Agricultural and Resource Economics Society, Christchurch, New Zealand & Virtual Livestream, February 7-10, 2023.

【外部資金獲得】

1. 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究C（一般）（課題番号20K06261）「研究課題：貿易自由化圧力と気候変動に対応した日中韓3か国の農産物生産費格差に関する比較分析」
研究代表者：近藤功庸、研究分担者：山本康貴・澤内大輔
交付期間：令和2年度～令和5年度（4年間）、交付金総額：429万円

齋藤 眞 宏

【著書】

1. Saito, M. (2023). Okinawa pendant la Guerre froide. Représentation dans les sciences sociales et analyse du programme scolaire officiel. NAQD. Revue d'Etudes et de Critique Sociale. (N° 41-42), 544p. pp.322-339. (Traduction de l'anglais au français Nathalie Chamba.)

【論文】

1. 草原和博・渡邊巧・大坂遊・西田めぐみ・齋藤眞宏・夏井一哉・内田千春（2023）「セルフスタディができる教師を育てる－教師と教師教育者のディスカッション－」．中国四国教育学会『教育学研究紀要』第68巻（CD-ROM版）、pp.655-666。
2. 内田千春・齋藤眞宏（2023）．「セルフスタディによる教師教育者の専門性の探求－多文化保育・教育の授業者としての葛藤の分析－」東洋大学教職センター紀要，東洋大学教職センター，pp.5-13．（査読付き）
3. Saito, M., Osaka, Y. & Watanabe, T. (2023). Our Search for Shutaisei: Self-Study of Three

University-Based Teacher Educators. *Studying Teacher Education*, Vol.19(2),128-146.
<https://doi.org/10.1080/17425964.2022.2137668>. (オンライン出版は2022年10月) (査読付き)

4. 齋藤眞宏 (2023). 「アイヌの他者化と向かい合うーある教師の学びからー」『異文化間教育』第58号、pp.60-76. (査読付き)

【研究発表】

1. (共同) Nishida, M. & Saito, M. Exploring the Truth in a Gap: Collaborative Self-Study through Senryu Poetry. The Annual conference of the American Educational Research Association (AERA), May 4th 2023. online.
2. (共同) 齋藤眞宏、内田千春. 「教育の学習化に向かい合うーセルフスタディを通じた考察ー」第44回異文化間教育学会、2023年6月10日、東京都立大学
3. (共同) Saito, M. & Nishida, M. Our roots and routes: Exploring an impact on the pedagogy of two Japanese educators through collaborative arts-based self-study. British Educational Research Association (BERA), Aston University, 12th September, 2023.
4. (ラウンドテーブル) 齋藤眞宏、大坂遊、渡邊巧、草原和博、大村龍太郎、岡村美由規、大西慎也、山内敏男、小林浩明、上田和子、武田信子. 「セルフスタディを語り合うー教師教育者の「教えることを教える」ことの探究とその成果ー」第75回中国四国教育学会、広島大学、2023年11月26日

【外部資金獲得】

1. 日本学術振興会科学研究費助成事業 (基盤研究C) 「先生の先生はいかに自己成長をするか: 教師教育者の専門性開発の体系化に向けて」 課題研究番号21K02472、2021~2023年、研究代表者、403万円

【社会活動 (ア)】 講師、通訳

1. (ワークショップ) 「異文化間理解のために (1): レヌカの学び」、北海道美深高校ダイバソフィ、2023年7月15日、北海道美深高校
2. (講義) 「上川高等学校進路啓発学習」2023年10月10日、旭川市立大学
3. (講義) 「比布町比布中学校進路学習」2023年11月13日、旭川市立大学
4. (講義) 「異文化間理解のために (2): 学校教育における実践」、北海道美深高校ダイバソフィ、2023年12月26日、北海道美深高校

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 異文化間教育学会紀要編集委員 (2023年6月まで)
2. 異文化間教育学会紀要常任編集委員 (2023年6月から現在に至る)
3. ともにまなぶ旭川遠友塾共同代表

佐々木 潔

【社会活動 (ア)】 講師、通訳

1. (非常勤講師) 北海道教育大学旭川校 非常勤講師 「経済学概論」「経済学特講 (金融論)」
2. (出張講義) 北海道旭川永嶺高等学校 「成人年齢引下げに関する金融経済教育」 (2023年7月20日)

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 旭川市 行財政改革推進委員会 委員
2. 国土交通省 北海道開発局 留萌開発建設部 入札監視委員会 委員 (2023年4月1日～)
3. あさひかわ創造都市推進協議会 副会長 (2023年8月23日～)
4. 旭川市 広報広聴推進懇談会 委員 (2023年9月6日～)

佐藤 直飛

【論文】

1. 「データサイエンス教育とベクトル」『数学教育学会 2023年度 春季年会予稿集』、pp.12-14

【学会発表】

1. (共同) 「旭川高専におけるAI・数理データサイエンス分野の初学者向け教育実践の取組について」、情報処理学会、2023年3月3日、電気通信大学
2. 「データサイエンス教育とベクトル」、数学教育学会、2023年3月16日、中央大学

【外部資金】

1. 科学研究費補助金・若手研究・研究課題番号22K13720 (2022年4月～2025年3月) 研究代表者
「多変量解析に関する基礎数理の系統的指導内容の構築」(4, 030, 000 円)

下田 卓治

【論文】

1. 「気候変動への取り組みが企業価値に与える影響の研究～TCFD賛同表明を経由した理論的経路の検証」『Journal of the Japan Society for Management Information』、31巻第4号、pp. 151- 167 (査読付)
2. 「ESGに関する活動が企業価値に与える影響の研究」『筑波大学大学院ビジネス科学研究科企業科学専攻博士後期課程 (学位論文)』 (査読付)

【学会発表】

1. 「女性活躍度と企業業績の関係に関する研究—えるぼし認定が企業の収益性に及ぼす影響—」、日本社会関連会計学会、2023年11月12日、桜美林大学

【社会活動（イ）】各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 情報処理技術者試験委員・情報処理安全確保支援士試験委員(2023年1月～3月)

杉 村 樹 可

【著書】

1. (共著)『地域産業政策の新展開—京都市を中心とした歴史研究と比較研究を踏まえて—』、文理閣、2023年3月、第14章「北海道上川地域の産業と旭川市の地域産業政策」を担当、292～326頁、および補論「経済復興の地域産業政策—いわき市の地域経営—」を担当、412～435頁

【学会発表】

1. 「旭川市の地域経営を考える」管理論研究会・日本比較経営学会、2023年12月9日
2. 「社会共生の視点から旭川市の地域経営について考える」社会共生学研究会、2023年12月10日

【社会活動（ア）】講師、通訳

1. (講義)「高校生のための経営学入門—ケースで学ぶ経営行動—」北海道士別翔雲高等学校 校出前講座、2023年12月12日、北海道士別翔雲高等学校

【社会活動（イ）】各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 旭川市廃棄物減量等推進審議会 委員
2. 旭川市上下水道事業審議会 会長
3. 旭川市都市計画審議会 会長
4. 旭川市観光振興のための新たな観光資源に関する検討部会 会長

武 田 浩 明

【学会発表】

1. 「副業／兼業収入に係る会計処理について」シンポジウム報告、日本租税理論学会2023年度全国大会、2023年10月22日、名城大学
2. 「税法における財務諸表の意義」九州経済学会第73回大会、2023年12月2日、九州大学

田中晃子

【著書】

1. (分担執筆) 日本流通学会編『現代流通事典(第3版)』「第5章 サービス業/5-7 フィットネスクラブ」白桃書房、2023年3月、142~143ページ。

谷口広明

【学会発表】

1. (共同) 井上明浩・谷口広明「知的障害者スポーツの国内未普及競技に関する考察ーヴィシー 2023Virtusグローバルゲームズの状況よりー」日本パラスポーツ学会、2023年11月18日、大分県庁正庁ホール。

【寄稿】

1. 「障害者スポーツの現在地」公益財団法人日本知的障害者福祉協会さぼーと11月号、p40-45.

【外部資金獲得】

1. (共同) グレイトブリテン・ササカワ財団「分離教育における日本の進むべき方向性の検討」(2023年)(40万円).

【社会活動(ア)】講師、通訳

(助言・通訳)

1. 国際知的障害者スポーツ連盟(Virtus)会議、2023年1月~、月1回オンライン開催。
2. アジアオセアニアスポーツインクルージョン会議、2023年1月~、月1回オンライン開催。
3. 国際知的障害者スポーツ連盟(Virtus)スキー世界選手権大会視察兼理事会出席、オーストリアゼーフェルト、2023年3月10日~16日。
4. 国際知的障害者スポーツ連盟(Virtus)グローバルゲームズ視察兼理事会出席、フランスヴィシー、2023年6月2日~12日。
5. 英国調査「英国のインクルーシブ教育の現状」英国教育省他、2023年8月25日~9月1日。
6. 国際知的障害者スポーツ連盟(Virtus)理事会出席、東京、2023年11月2日~6日。
7. ニュージーランド雪上スポーツ連盟(SSNZ)パラアルペンスキー指導・技術アドバイザー、2023年6月~オンライン開催。

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 中央大学保健体育研究室 客員研究員
2. 上智大学多文化共生社会研究所 客員研究員
3. 全日本知的障がい者スポーツ協会 理事
4. 国際知的障害者スポーツ連盟 (Virtus) 理事
5. 国際知的障害者スポーツ連盟 (Virtus) アジア支部 理事
6. アジアアダプテッドスポーツ学会 (ASAPE) 札幌大会2024 実行委員
7. 旭川ウェルビーイングコンソーシアム スポーツ医科学部会委員

張 興 和

【論文】

1. (研究ノート) 「経済学部における数学教育の実践状況と今後の課題 — 「数学 I」の教育効果と新型コロナウイルス感染症からの影響 —」、『旭川大学経済学部紀要』、第82号 (2023.3)、pp.57-70

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 「旭川市環境審議会」委員
2. 旭川市永山第三地区「社会福祉協議会」副会長
3. 旭川市永山第三地区「第37回永山屯田まつり」実行委員会
4. 旭川市永山第三地区「安全・快適な冬の生活道路を守る」事業実行委員

野 村 幸 輝

【論文】

1. 資料「広島訪問を終えて」『旭川大学経済学部紀要』、第82号、83～89頁

【翻訳】

1. ティム・オブライエン『戦争へ行った父から、愛する息子たちへ』（共訳）、作品社

宮下 郁男

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 北海道支部 旭川訓練センター 運営協議会 委員 (座長)

村尾 太久

【学会発表】

1. 「文献紹介報告:Ernest Roguin, “La règle de droit : analyse générale, spécialités, souveraineté des états, assiette de l'impôt, théorie des statuts, système des rapports de droit privé, précédé d'une introduction sur la classification des disciplines”. F. Rouge , 1889」、法理学研究会、2023年1月21日、京都大学

【社会活動 (ア)】 講師、通訳

1. (出張講義)「フランス人はなぜ盛んに議論するのか」、「学びのフローラ第2弾」、2024年6月16日、旭川東高等学校

【社会活動 (イ)】 各種委員会・団体活動等；学会役員、行政委員会、NPO等活動団体役員等

1. 旭川市公正職務審査会
2. 旭川市情報公開・個人情報保護委員会
3. まちなかキャンパス審査員
4. 公益財団法人日本高等教育評価機構評価員

山崎 智仁

【著書】

1. (共著、著者) 日本デジタル・シティズンシップ教育研究会編、坂本旬、豊福晋平、芳賀高洋、今度珠美、林一真、野本竜哉、水内豊和、齋藤大地、勝見慶子、斉藤剛、有山裕美子、秋山貴俊、浅村芳枝、今田英樹、大崎貢、山崎恭平、後藤匡敬、樋井一宏、山崎智仁『はじめよう！デジタル・シティズンシップの授業－善きデジタル市民となるための学び－』、第3章P104～109「何を話していいのかな」を担当、日本標準、2023年7月

2. (共著、著者) 編著：西村健一、水内豊和、著：澤江幸則、杉山文乃、佐々木邦彦、後藤匡敬、藤田武士、神代博晋、関口あさか、越智早智、山崎智仁、菱真衣、和久田高之、齋藤大地、窪田友香里、伊藤志織、門脇絵美、樋口進太郎、酒井泰葉、杉岡英明、酒井重義、林洋二郎、高瀬悦子、古里王明、佐藤みゆき、辻行雄、櫛野展正『新時代を生きる力を育む 知的・発達障害のある子のウェルビーイング教育・支援実践』、第2部P90～93「味噌作りを通じた健康的な食生活への取り組み～地域の味噌屋との連携を通して～」・P122～125「米・野菜作りを通じた食への関心の高まり～交流及び共同学習の取り組みから～」を担当、ジアース教育新社、2023年8月
3. (共著、編者) 監修：水内豊和、編著：後藤匡敬、山崎智仁、著：井手尾美樹、稲田健実、上羽奈津美、奥田隼人、小田貴史、小原一志、金森光紀、小蘭大将、瀧脇隆志、多田肇、日置健児朗、深谷久美子、福本幹彦、本川琢磨、松本和也、村上精一、『特別支援教育×ロイロノート：個別最適化された学び・協働的な学びを実現するICT活用』、P14～15「ロイロノート・スクールで何ができるのか」・P30～33「ものの名前を覚えよう！」・P84～87「学校の準備をしよう！」・P124～127「イライラしたらどうしよう」・P136～139「知的障害や発達障のある子どもとロイロノート」を担当、ジアース教育新社、2023年9月

【論文】

1. (特集記事、共著、筆頭) 山崎智仁、齋藤大地、水内豊和「富附特支型デジタル・シティズンシップ教育の実践」『メディア情報リテラシー研究』、4 (2)、113-123
2. (共著、筆頭) Tomohito YAMAZAKI、Toyokazu MIZUUCHI「Support for fitting Chromebooks to the child with cerebral palsy: A practical study on incorporating advice from ICT specialists」『The 31st International Conference on Computers in Education Proceedings』、1、913-915 (査読付)

【学会発表】

1. (共同) Tomohito YAMAZAKI、Toyokazu MIZUUCHI「Support for fitting Chromebooks to the child with cerebral palsy: A practical study on incorporating advice from ICT specialists」、The 31st International Conference on Computers in Education、2023年12月7日、京都大学

【その他学会活動】

1. (指定討論者) 齋藤大地、菱真衣、関口あさか、山崎智仁、水内豊和「知的障害のある児童生徒に対する情報モラルの指導の実際 — 1人1台端末時代における善き使い手を目指す学び—」、日本特殊教育学会第61回大会、2023年8月26日、横浜国立大学
2. (話題提供者) 小林真、北村満、山崎智仁、紺恵、齋藤大地「知的障害特別支援学校におけるデジタル・シティズンシップ教育 — 富山大学教育学部附属特別支援学校におけ

- る取り組みから一」、日本特殊教育学会第61回大会、2023年8月27日、横浜国立大学
3. (話題提供者) 西村健一、水内豊和、門脇絵美、山崎智仁、酒井泰葉、澤江幸則「知的障害・発達障害児・者とウェルビーイング ―今とこれからを生きる力を育むために支援者が考えておくべきこと一」、日本特殊教育学会第61回大会、2023年8月27日、横浜国立大学
 4. (企画者) 山崎智仁、樋井一宏、菱真衣、和久田高之、関口あさか、後藤匡敬、水内豊和、齋藤大地「知的障害のある子どもの対話型AI活用に向けた支援方法の検討～個の実態や障害特性に応じた教育実践を通して～」、日本LD学会第32回大会、2023年9月28日～11月30日、広島大学

【一般向き論説】

1. (共著) 樋井一宏、山崎智仁「障害のある子どもたちの豊かな学びと生活のためのAI活用実践「ChatGPTとの適切なつきあい方について考えてみよう」『実践みんなの特別支援教育』、51 (11)、28-29
2. (共著) 後藤匡敬、山崎智仁「障害のある子どもたちの豊かな学びと生活のためのAI活用実践「知的障害特別支援学校中学部国語科の実践」『実践みんなの特別支援教育』、52 (1)、34-35

【外部資金獲得】

1. (研究代表者) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援「知的障害児の生成AI活用に向けた支援方法の検討」(23K18910) (2023年～2025年) (2,860,000円)
2. (研究代表者) 全国農業協同組合中央会 令和5年度JA研究表彰奨励事業「農福連携における農協の取り組みに関する実態調査:中間支援組織として求められる役割」(2023年～2024年) (500,000円)
3. (研究分担者) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「知的障害特別支援学校におけるプログラミング教育の実践的検討と普及促進に関する研究」(21K02828) (2021年～2024年) (4,160,000円)
4. (研究分担者) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「知的障害特別支援学校におけるデジタル・シティズンシップ教育の充実に関する研究」(22K02736) (2022年～2025年) (3,510,000円)
5. (研究分担者) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「小中高等学校をつなぐ系統的プログラミング教育カリキュラムと指導法の開発」(22K02803) (2022年～2025年) (4,160,000円)

【社会活動 (ア)】

1. (講演)「Google Workspaceで拓く特別支援教育」、TD SYNEX(主催) Google for Education 実践編～oneday合宿～、4月22日、オンライン開催
2. (講演)「知的障害教育におけるICT活用の実践について ―Teamsの活用から子どもの実態に合わせた指導まで―」、東京都立中野特別支援学校 校内研修会、5月31日、オンライン開催
3. (講義)「はじめての心理学」、北海道鷹栖高等学校 講義体験、6月19日、旭川市立大学
4. (講演)「授業実践と評価の一体化を目指した授業づくり」、高知県立山田特別支援学校田野分校 研修会、7月26日、オンライン開催
5. (講義)「iMovieの使い方」、出前授業、8月1日、旭川市立忠和中学校
6. (講演)「知的障害教育におけるICT活用の実践について ―Google for Educationの活用からプログラミング教育まで―」、金沢市教育委員会 令和5年度教職員研修講座、8月8日、オンライン開催
7. (講演)「対話型(生成系)AIって特別支援教育で何ができるの?」、新潟AT研究会公開研修会、11月19日、オンライン開催
8. (講演)「知的障害のある子どもの情報活用能力とは」、富山大学教育学部附属特別支援学校 公開教育研究会、12月15日、富山大学教育学部附属特別支援学校

【社会活動 (イ)】

1. JDiCE 日本デジタル・シティズンシップ教育研究会; 専門委員